

不安に打ち勝ち(マルコ 4:36-41)

人の根本には不安が座り込んでいます。それを埋めようと、人々はもがいて生きていますが、それは決して埋められることはなく、なにかのきっかけがあると、形に現れます。また、なにもなくても、自ら不安の世界を作り出して入って行くことも多いです。不安でないのに、不安に思うことが妄想で、現実ではないのに作り出すことを妄想と言います。結局、根底にある不安が人生を動かして、争いや断絶、孤立を生み出すので、人生の大きな課題は不安に打ち勝つ平安なのです。平安を味わうために、なにからどのように始めれば良いのでしょうか。不安の始まりを聖書から見てみましょう。

1. 不安の始まり

1) 神のかたちへの最高の賜物安息
(創世記 1:27、2:3)

神様は人を神のかたち、つまり、神様がともにおられる存在として創造されました。内に神様がおられることが、神様からの最高のプレゼントです。神様は創造のわざを終えられたあと、休まれました。それが安息であり、平安です。神様のかたちの人間には、不安はありませんでした。今日の聖書箇所、イエス様が湖の嵐に向かって、「黙れ、静まれ」と言われたとき、嵐は止みました。創造され、治められる神様とともにいるとき、突風は不安ではないのです。何か不安材料があるから、当然、不安になると思うのは、いつわりです。神のかたちの本来の人間は、どんなことがあっても不安ではなかったのです。

2) 神様を離れる罪により(創世記 3:10)

しかし、サタンにだまされて神様から離れて、神のかたちが壊れてしまいました。そこで、神様に会うことが恐れになってしまったのです。神様から離れてから不安がはじまりました。

自分が思っている不安や平安の理由は、みことばどおりでしょうか。みことばを聞いて、自分が思っていることとちがうのだと分かることが恵みです。みことばどおり「なるほど」となるとき、刻印され「ならば」と決断になります。そうすれば、暗い考えにみことばの光が臨むので、いやされます。

3) 不安の奴隷

神様から離れてからは、不安の奴隷になってしまいました。その結果、偶像崇拜が生まれました。不安を消そうとして、知識や富、成功を追求します。知識や富、成功は、神様の栄光のための道具であり、不安を消すための道具ではありません。しかし、不安は消えないので、どんどんエスカレートして、戦争まで起こすのです。それが、いままでの歴史で証拠を見ることができません。

2. 真の平安への道

神様は真の平安への道を備えてくださいました。

1) 創世記 3:15、出エジプト 3:18、イザヤ 7:14

不安をもたせた元凶のサタンに打ち勝つ女の子孫を送ると言われました。暗やみの勢力を打ち砕き、罪とのろい、運命から解放して下さるために、罪のない神の御子が犠牲のいけにえとなって、贖いの死を通して、罪とのろいをすべて打ち砕いて勝利すると約束して下さったのです。その方は、インマヌエルと呼ばれる、つまり神様がともにおられる平和の主人公への道だということです。神様とともにいる他に平安の道はありません。キリストが道であり、まことの預言者、祭司、王です。そのキリストが地上に生まれ、十字架ですべて完了され、その証拠でよみがえられたイエス様です。

2) マタイ 16:16、11:28、ヨハネ 14:27

イエスがキリストです。イエス・キリスト、

それこそが、不安に打ち勝って、まことの平安、勝利への道です。それゆえ、イエス様は自分のところに来ようと招いてくださっているのです。イエス様は、世が与えるのとはちがう真の平安を与えられました。

3) ヨハネ 1:12、1コリント 3:16

平安のイエスを信じて受け入れた者は、神の子どもとなり、三位一体の神様が内に入り、永遠にともにおられる神の神殿となります。神のかたちが回復するのです。サタンは不安の要素がなくなることが平安だと、偽りを教えますが、そうではなく、神様がともにおられる神のかたちが回復することが平安だと確認しましょう。

3. 不安の原因を素直に認めるところから

平安は、不安の原因を素直に認めることから始まります

1) 未信者

未信者がなぜ不安なのか、イエス・キリストと出会っていないからです。

2) 信者

信者は不安にならざるを得ない要素があるからではありません。今日の聖書箇所を見ると、イエス様がともにおられるのに、嵐で不安になった弟子たちの姿があります。それ

は嵐のせいではありません。嵐になると不安になって当然だと思う、脳細胞に刻まれたことを、みことばによって覆しましょう。不安の理由があるからではなく、信じているイエスがキリストだと明確に分からないからです。神様がともにおられるいのちの祝福を分かっています。それを素直に認めましょう。

3) 弟子

ヨセフやダビデ、パウロはどんな状況でも、神様がともにおられるから不安ではありませんでした。パウロの信じるイエス様と私たちが信じているイエス様は同じです。

不安はどこから始まるか、すなおに認め、修正しましょう。そして、普通に考えると不安になる不安要素(勉強、経済、家庭、健康、恋愛、未来)の前で、イエスはキリストと告白しましょう。不安になる要素の前で、使徒 1:7-8 を握って、「知らなくても良い」と言われたように、ただ聖霊に満たされることにこだわり、神様がともにおられる御座の祝福があることを確認しましょう。そうすれば、不安が消えていきます。そのあとで 14 の祈りに専念しましょう。不安を消すためではありません。内に三位一体の神様がともにおられるので、平安であることを味わい、平和の伝道師として生涯を歩みましょう。

1 部- マルコ 4: 4: 36-41 不安に打ち勝ち

なるほど/ 不安の原因は見えるものではなく、イエス・キリストを信じない不信仰にあることを認めるとき、不安に勝って平安を味わうことになる。

ならば/ 多くの不安要素の前で、イエスがキリストであることを告白し、使徒 1:7-8 を握り、14 節の祈りの人になろう。

2 部-エペソ 1:21 イエス・キリストの御名の権威

なるほど/ イエス・キリストの御名の権威がわかると、人生の根本が新しくなり、すべての問題が終わり、完全な祝福の主人公になっていることがわかります。

ならば/ イエス・キリストの御名で不信仰を砕き、その御名で御座の祝福が働くように祈ろう。